

松山聾学校の交流、体験活動の御案内

(ホームページでご覧いただいている)
地域の幼稚園、保育所や小・中学校、高等学校へ通う
聴覚障がいのある皆さんへ

サマースクール

平成20年に小学部で開始してから、今年で11年目になるサマースクール。翌年には幼稚部と中学部、翌々年には高等部でも開催するようになって現在に至ります。



(第1回目のサマースクールの様子)

昨年は校外から23名の方に参加していただきました。

今年は、7月26日(木)に行います。

今年も各部に分かれ、幼稚部は水遊び、小学部は集団遊び、中・高等部は活動を通じた生徒交流会をします。

聴覚障がいのある幼児児童生徒の貴重な交流の場です。

是非、御参加ください。締切りは7月9日(月)です。

FAX、Eメールでお申してください。

所在地 〒799-2655 愛媛県松山市馬木町2325番地

電話 089-979-2211

FAX 089-979-2214

e-mail matsd-ad@esnet.ed.jp

高等部体験入学

聴覚障がいのある中学生(1~3年生)なら、身体障害者手帳の有無や聴力レベルに関係なくだれでも参加できます。実際に本校高等部の授業(普通科、理容科)を体験するだけでなく、本校並びに高等学校への進学に関する教育相談も受けることもできます。期日は、9月7日(金)です。参加については、在籍している中学校の先生に御相談ください。不明な点は、本校へ直接お問い合わせいただいても構いません。締切りは8月8日(水)です。

まだ、間に合います。気軽にお申込みください。

授業交流

本校では、地域で学ぶ聴覚障がいのある子供と本校の子供たちが、仲間意識を育て、自身の障がい理解を深めるための機会として「授業交流」を企画しています。昨年度は、3回実施し、地域の小・中学校に通う聴覚障がいのある児童生徒9名が来校して本校の授業に参加しました。日頃体験することができない聴覚障がいのある児童生徒同士の学びを体験できる機会です。希望される方は、在籍する学校の担任の先生、特別支援教育コーディネーターの先生に御相談ください。

いつでも申し込めます。

お知らせ

7月6日(金)11時に、日本コクレア社の方が来校されます。本館3階の聴能言語室で20分程度、人工内耳のコイルー体型対外装置(KANSO)の防水アクセサリーの紹介をしていただきますので、興味のある方は、お越しください。(校外より参加を希望される方はEメール等で事前に御連絡ください。)

松山聾学校主催の研修（公開講座）の御案内

（ホームページでご覧いただいている）
聴覚障がいのある子供を担当している、幼稚園、保育所や
小・中学校、高等学校、療育機関等の先生方へ

日時 平成30年8月22日（水） 9:00～11:55

内容 1講座70分で、以下の5講座から2つを選択受講することができます。

- ① 幼児教育
- ② 聴覚障がいの基礎
- ③ 各教科等における配慮事項
- ④ 進路指導の実際
- ⑤ 情報保障

①のみ1回だけの開講です。
②～⑤は同じ内容で2回開講
しますので、どちらかで受講し
ていただくことができます。

※ 詳細はホームページで御確認ください。
申込み締切りは7月25日（水）です。

小冊子の御紹介

「聴覚障がい者と聴者のマナーの認識の違いについて」

先日、ホームページを検索していたら、こういうタイトルの小冊子が販売されていることを知り、早速注文しました。筆者である安藤さんは、御自身も聴覚障がい者で、「生まれつき聴覚障がい者の私は育った環境にいる人がすべて健常者だったため、常に考えは健常者と同じ考えで、他の障がい者と自分は同じだと思っただけいけない、『私はきこえないけど、健常者と変わらないよ』という安心感を持つようとしていました。反面、私は聴覚障がい者なのに、微妙な気持ちでした。実際は健常者の中では明るく振る舞い、時には孤立しているような状態で学生時代を過ごしました。」とホームページで述べておられます。

そうした筆者の経験やアンケートなどで集まったエピソードを基にして、1枚のイラストとともに聴覚障がい者が困ることや聴者が気付にくいことが紹介されています。タイトルは「マナーの違い」となっていますが、聴者には分かりにくい聴覚障がい者との「文化の違い」を理解する手引書のような感じです。そこま



でしっかり読み込まなくても「聴覚障がい者あるある」のような感じで気軽に読むのもいいと思います。

「みみちゃん」担当者が持っていますので、試しにご覧になりたい方はお声掛けください。1冊500円と送料がかかりますが、まとめて注文すると安くなるので、希望者が多ければ、一括での注文も考えています。また、「聴導犬レオンのマンガ」も手元にあります。こちらは、犬好きの人ならよく分かる、「犬あるある」がたくさん載っています。

実際に試してみました

福祉機器の「代用品」は、どこまで使えるか？

この「みみちゃん」では、これまで様々な福祉機器を紹介してきました。どれも決して安くはないので、試してみようと思ってもなかなか…ということも多いと思います。そこで、最近、担当者が実際に試してみた機器について報告いたします。

その1：補聴器ならぬ集音器とは

補聴器と集音器は、価格が大きく異なるだけでなく、医療機器かどうかという違いがあります。そして、補聴器は、基本的に資格（認定補聴器技能者）のある人が一人一人の聞こえに合わせて調整します（但し、実際には有資格者がいない眼鏡屋さんで販売されていることもあります）。

先日、みみちゃん担当者の「身内」が、新聞広告の通信販売で補聴器だと思って集音器を購入していたようです。その実物を見せてもらいました。一見、補聴器と同じ耳掛け型のものですが、調整トリマはなく、ボリュームのみです。音を聞いてみましたが、中等度難聴の担当者ではやや物足りず、聞きたい声ははっきり聞こえないわりに周りの環境音はよく拾っているなど感じました。担当者の聞こえに合わせてはいないからでしょう。

集音器は、補聴器の代用として使えるのかということになりますと、聴力の程度だけでなく、聞こえに対する期待や要望も関係してくるため、人それぞれ、ということになると思います。ただ、集音器は音を大きくするだけの機能しかないので、コスト的には良くても、音に関してはこれで満足できる人は少ないだろうなと思います。ごく軽度の難聴の人なら試してみてもいいでしょうが、あまりお勧めはできないなと感じました。ちなみにその集音器は「あまり聞こえん」ということで、担当者が譲り受け、改めて「補聴器」を購入することになった次第です。



その2：振動式目覚まし時計の代わりに

成人して仕事を始めてからも家の人に「起こしてもらっている」という卒業生の話を書く機会があり、聴覚障がいのある人が自分で起きることは大変だと感じたことがありました。そうした経緯もあり、自立・連携課では、これまでも、振動式目覚ましの紹介や貸出を行ってきました。振動式目覚まし時計は、福祉機器関係のカタログでは、1万円前後の品物が多いようです。スマートフォンで設定するワイヤレスの振動装置（シェーカ）も1万円ぐらいします。身体障害者手帳2級を取得し家族に聞こえる人がいない場合は、屋内信号装置として、10%の自己負担で入手できます。しかし、これに該当しない聴覚障がい者は、自費購入ということになります。ろう学校の在籍者は、ほとんどの人が自費購入しなければなりません。

振動式目覚まし時計をネット通販で探してみると、安いものでだいたい5000円ぐらいから購入できるようです。先述のワイヤレスの振動装置も、海外のサイトなら同じぐらいで買えるようです。腕時計式のもの、福祉のカタログでは1万円から2万円弱で、やはりすぐ購入というわけにはいきません。が、腕時計式のを購入するなら、スマートウォッチはどうなのだろうと思ったのが先日のこと。早速、みみちゃん担当者は海外製の安い2500円のものを購入して試してみました。スマートウォッチ自体、数年前なら考えつかなかった選択です。

設定は、Bluetoothで接続したスマートフォンのアプリで行います。実際に使ってみると、振動する端子が極端に強いわけではないものの、担当者はこれで十分に起きることができました。最近、加齢性難聴（老人性難聴）のためか、今まで聞こえていた大音量の目覚まし時計では起きられないことが増えてきたので、結構重宝しています。腕に巻くことで、振動子が体に触れた状態が維持できるので、寝相の悪い人でも大丈夫そうです。案外使えるかもと感じました。



その3：ワイヤレスの呼び出し装置を探すうちに

最近、病院によく行くようになって、ドキドキするのが「〇〇さん」の呼び出し。なるべく受付の前に座って集中しますが、待合室というのは雑音も多くていつも緊張します。ショッピングセンターのフードコートでは、よく音や振動で「できあがり」を知らせてくれる呼び出し装置を使ってくれるところがありますが、あんなのがあればいいのになと思いました。なければ持ち歩いて使ってもら

のもいいか、そういえば福祉機器の中に「呼び出し装置」があったなとカタログを探していると、セットで1万円を少し超えるぐらいからありました。この用途だけで自己負担で購入するには少し勇気のいる価格です。そこで、代替品はないものかとインターネットで検索すると、生活家電や防犯のカテゴリで、ワイヤレスのインターホンを見つけました。さらに検索すると、福祉・介護のカテゴリでもワイヤレスの呼び出し装置を見つけました。取付を前提とした機器ですが、一番安いものでも送料を含めて1500円程度で済みます。しかし、これらは音でしか知らせられず、振動で伝える機能があるものはなかなか見つかりませんでした。結局、振動で伝える機能がついているものはやや高価だったので、光で知らせるタイプのものを探し出し、注文しました。

このワイヤレスの呼び出し機を探している途中、ドアセンサ（ドアの開閉を知らせる発信機）やベビーセンサ（赤ちゃんの泣き声を知らせる発信機）、複数の個所からの発信を受信できる機器、受信時にフラッシュで知らせる機能の付いた機器などいろいろなものが数千円ぐらいで販売されていることが分かりました。これらの機器を上手に選択し、機能を組み合わせると、屋内信号装置が安価で構築できると感じました（ホームセンターでも販売されていますが、ネット購入の方が安く済みそうです）。福祉制度上の屋内信号装置の給付は、先述のように身体障害者手帳2級のみと対象が狭く、かつ信号装置自体が、日常生活用具の支給額である87400円（税抜）で設定されるために高額になります。よって、現実には自費で揃える必要がある聴覚障がい者の方が多いにもかかわらず、価格の面でハードルが高くなっているのが現状だと思います。機会があれば、これらの安価な機器を組み合わせ、どれぐらいの負担で、福祉機器メーカーが出している屋内信号装置に近いものを作ることができるのか調べてみたいと思った次第です。

さて、届いたワイヤレスの装置ですが、さほど大き過ぎず、持ち運びに支障はないように感じました。音量をオフにして受信機の光のみの設定で使うことができますが、周りの目が気になる人は、ちょっと使いにくいかもしれませんが、その場合、振動するタイプのものを探した方がいいかなと感じました。後、気を付けることとしては、使用後に送信機を返してもらい忘れないようにすることでしょうか。



デフ・パペットシアター・ひとみ 公演 「河の童（かわのかっぱ）」

イベントの御案内

日時 2018年9月1日（土） 13:30開演
会場 松山市総合福祉センター 1階 大会議室
（松山市若草町8-2）
観劇料 大人 1,500円、中・高生 1,000円
小学生 500円（当日券は各200円増）

デフ・パペットシアター・ひとみはろう者（DEAF）と聴者が共に創作～公演活動を行う人形劇団です。「ひょっこりひょうたん島」でおなじみの人形劇団ひとみ座を母体に1980年に結成しました。「すべての人に人形劇を」のコンセプトのもと、年齢や性別、母語、宗教の違いや身体のハンディを超えて、すべての人が共に楽しめる人形劇の創作、公演活動を続けています。

※ 本校の関係者には、後日改めて御案内する予定です。



編集後記

以前、この「みみちゃん」でも御紹介した「淋しいのはアンタだけじゃない（吉本浩二著・小学館）」が、全3巻で完結しました。丁寧な取材を基にしたドキュメンタリーであるが故に、なのかもしれませんが、紆余曲折があったことがうかがえる最終巻でした。一方で、聴力レベルだけでは測れない聴覚障がい者の様相がよく描かれ、聴覚障がいの理解に使えるマンガ本だと思いました。興味を持たれた方は、みみちゃん担当者までお声掛けください。

今回取り上げさせていただいた、「代用品」の話ですが、いずれも担当者の主観によるものです。こちらの記事についても興味を持たれた方は、みみちゃん担当者までお声掛けください。また、私はこういう形で工夫している、という情報などありましたら、是非お聞かせください。